

Linkage

2025
Winter
Vol. 21



ご利用見様の作品

トピックス

あけましておめでとうございます。

旧年中は当法人の運営にご支援・ご協力いただき、関係者の皆様には感謝申し上げます。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

あけまして
おめでとう
ございます



2 活動報告

冬の寒さも増し、体調を崩しやすい季節となりました。くれぐれもご自愛ください。

10～12月の3ヶ月間の活動をご報告いたします。

児童発達支援

■避難訓練を実施しています。

それらまめでは、非常災害に備え、子どもたちを守るために風水害、地震、火災の避難訓練を定期的に行っています。

今回は、その中で「風水害」の避難訓練についてのご報告をいたします。

風水害について、紙芝居で子どもたちにお話をしました。

ゲーム感覚で楽しめる〇×クイズも交えながら、風水害が起こった際の避難についての理解を深めました。

実際によく通う幼稚園・保育園で大雨が降った時のイラスト等を示し、「大きな水たまりがあるよ、遊んでも大丈夫かな？」と子ども達自身に考えてもらえるようにしました。

また、「雨の良いところってどんなところ？」という問いかけも行い、花や野菜がすくすく育つこと、雨の日にはしか見つかからないカエルやカタツムリが見つけれられるかもしれないねといった楽しいお話もしました。

実際の訓練ではいつも療育を行っているきっずる一むから、リンクエージ事務所であるビル2階へと避難しました。

泣いているお子さんもいましたが、スタッフの抱っこで安全に避難することができました。

みんなよくがんばって2階まで上がってくれました。

避難後のスタッフ間の反省点として「雨量によっては、子どもたちをスタッフが抱っこやおんぶをした方が安全である」ことを再確認しました。

また、昼間でもビルの階段が薄暗く、子どもの中には「暗い」と怖がる子もおり、電気をつけてあげると安心できると気づかされました。

子どもたちがびしょ濡れになってしまった場合に備え、避難所では温かい毛布や飲み物、ほっとできるおもちゃやお菓子があると安心して過ごせるのではないかという意見も出ました。

今後も子どもたちを守るために避難訓練を行っていきますので、避難についてご意見や質問等あればスタッフまでお声掛けください。



使用イラスト教材：「豊岡市と国土交通省豊岡河川国道事務所が協力して作成した防災教育教材」

■みんなの声を聞いてみました！

～子どもたちへのアンケート結果より～

そらまめを利用する子どもたちに、普段の活動についてアンケートを行いました！その率直な声を通して、そらまめの魅力や改善点が見えてきたので、ここで少しご紹介します。

① そらまめは楽しいですか？

「うん！楽しい！」という元気な声が多く聞かれる一方で、「まあまあかな～」「つまらないときもある」という意見もありました。子どもたちの素直な声を大切に、これからも寄り添った支援を心がけます！

② そらまめで楽しいことはなんですか？

「ゲーム」「ブロック遊び」「公園で遊ぶこと」が特に人気！体を動かしたり、みんなで遊ぶ時間がとても楽しいようです。

③ ゲームは友達とするのと先生とするの、どちらが好き？

「友達と！」と答える子が多い中、「先生とやるのも好き」という意見も。先生たちが子どもたちにとって頼れる存在であることが伝わります！

④ そらまめでやりたいことは？

「もっとゲームしたい！」「公園に行きたい！」など、楽しそうなアイデアがいっぱい！みんなの夢を叶えられるよう、スタッフ一同頑張ります。

⑤ そらまめで苦手なことは？

「勉強の時間」が苦手という声が多く聞かれました。無理なく取り組める工夫を続けていきます。また、「苦手な子がいる」という意見もあり、安心して過ごせる環境づくりに取り組みます。

⑥ そらまめが終わった後の気持ちは？

「楽しかった！」という声が大半！「疲れるけど、いい疲れ～」という声からも、全力で遊ぶ子どもたちの様子が目に浮かびます。

⑦ そらまめに改善してほしいことは？

「もっとおやつがほしい」「ゲームの時間を長くしてほしい」「トイレを直してほしい」など、たくさんのリクエストがありました。改善に向けて検討していきます！

⑧ 話しやすい先生、楽しい先生はいますか？

「いる！」と大盛り上がり！先生たちとの楽しいエピソードがたくさん飛び出し、関係の良さが伺えました。

⑨ そらまめに言いたいことはありますか？

「楽しい！」という感謝の声や「もっと新しい遊びを考えて！」という意見があり、子どもたちの期待を感じました。

⑩ そらまめを続けたいですか？

「もちろん続けたい！」という声がほとんど。そらまめが子どもたちにとって、大切な居場所になっていることを改めて感じました。

アンケートを終えて

子どもたちの「楽しい！」が詰まったそらまめ。これからも、みんなの夢や希望を大切に、さらに素敵な場所へと進化していきます！皆さんの温かい応援をよろしくお願いいたします。

■ソーシャルスキルクラブ

10月12日、晴天に恵まれた中で、さつまいもほりイベントを実施しました。参加者は、車に乗って目的地に向かい、車内ではポケモンの話題で盛り上がりながら楽しい時間を過ごしました。途中、コンビニに立ち寄り、お昼を購入した後、いよいよ畑に到着。

畑では、芋ほりを始めたものの、虫に驚いたり戸惑う様子も見られました。しかし、芋を見つけると、みんなで協力してどんな方法で掘り出すかを考えながら活動に取り組みました。芋が見えるように蔓を切る子、大きなシャベルで土から見えるように掘り出してくれる子など皆で力を合わせることで、より多くの芋を収穫することができました。

お昼ご飯は畑の上にビニールシートを敷いて食べました。たくさん働いた後のおにぎりは格別においしく、子どもたちの笑顔が見られて、嬉しい気持ちになりました。

イベントの最後には、蔓やゴミなどをしっかり片づけ、みんなで協力して帰路につきました。今回が初めての企画でしたが、子どもたちの楽しんでいる様子を見ることができ、とても良い経験となりました。今後もこうした活動を続けていきたいと思えます。



相談支援

日頃よりリンケージの相談支援をご利用いただきありがとうございます。

受給者証の申請や更新、モニタリングに担当者会議など…、皆様の貴重なお時間をいただきありがとうございます。

今回は「モニタリング」についてお話をさせていただきます。

モニタリングは、利用者のニーズや必要性にあった支援利用計画が適切かどうかを確認し、計画の再評価や見直しを行うことです。

期間は1～6ヵ月ごとに実施され、サービスの利用状況ご要望、家庭状況や保育園・幼稚園、学校、職場など通われている場所での様子、健康状態等を確認します。

リンケージでは、翌月がモニタリング対象月の方、または受給者証の更新月の方あてにお知らせメールを送らせていただいております。

お返事いただいたメールの内容を参考に、モニタリングを行っております。

お手間をおかけすることもあります。より良い生活のためモニタリングの機会を是非ご活用ください。

これまで、モニタリングのお知らせ（事前アンケートフォームのご案内）は郵送にて通知させていただいておりましたが、郵便料金の値上げ等を理由に、令和6年10月よりメールでの通知に変更させていただいております。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。

啓蒙活動

新年明けましておめでとうございます。

1月1日はいたるところでこの挨拶が交わされ、さまざまな儀式が執り行われていると思います。

考えてみれば、儀式とは大事な何かを思い出すためのものなのかもしれませんね。

さて、リンケージでは、毎年、群馬県発達障害者支援センターからのご依頼で支援者研修の応用編を担当させていただいております。

今回は、「発達障害とトラウマケア」と「発達障害とこだわり行動」の二本立てでした。

私も毎日、スーツは裏返しに着ない、眠いときはストレッチをさぼる、毎日道々の葉っぱの色を観察して仕事に遅刻しそうになる、夜眠る前に今日一日感謝したいことを思い出そうと頭に浮かべた瞬間に眠ってしまうなど、こだわりや儀式の中で生きていますが、自閉スペクトラムのある人々のこだわり行動には何か違いがあるのかな？とふと疑問に思いました。

ちまたでも、「こだわりは活かすもの」、「いやこだわりが強くなる時はSOSのサインだよ」など、こだわりについては様々な考え方があります。

そこで、過去30年ほど遡って先行研究論文を集め、読み込んで、こだわりには3つの機能があることを学び、研修参加者の皆さまと学びを共有することができました。

今年も1年、学びを深める機会に出会えることを楽しみにしています。

就労移行支援・就労定着支援

■就活座談会をおこないました

就労移行支援の方では、10月に毎年恒例の『就活座談会』をおこないました。二人の卒業生に来ていただき、就職までの経緯や現在の就労先での様子などを聞かせてもらいました。現役トレーニング生からはたくさん質問が出ました。「今の企業に決めた決め手は何か？」「今どんな配慮をしてもらっているか？」「苦手な人はいないか？」など、具体的に鋭い質問がたくさん出ましたが、卒業生のお二人とも、よく考えながら丁寧に答えてくれていました。就職して間もない先輩だったので、一緒にトレーニングしていた方も多く、お話がとてもリアルでとても参考になったようでした。引き続き、毎年実施していけたらと考えています。

■就労定着支援の状況について

現在、リンケージでは約20名の方の職場定着の支援をおこなっています。就労定着支援は就職後半年経った方が申し込める障害福祉サービスで、支援者が職場に訪問して職場定着のサポートをおこなっています。現在、リンケージの就労移行支援を利用して一般企業に就職される方は、皆さんご利用になっている状況です。就職しても、その後徐々に業務が増えて困ることが出きたり、上司の異動があったりと、さまざまな変化が生じます。就職後も安心して長く働くために、ぜひご活用いただけたらと考えています。



※就労移行支援のトレーニング生が、今年のリンケージの年賀状を描いてくれました。

3 情報提供

この欄では毎回皆様が皆様らしく生きるためのヒントとなるような情報などをお伝えできたらと思っております。

今回は、アドラー心理学の目的論をご紹介します。

目的論とは、人が行動を起こすとき、本人が自覚的かどうかにかかわらず必ず目的があるという考え方のことです。

原因に対して行動(結果)が自動的に決まる、受け身的な原因論ではない、人は自らの目的のために行動を選択することができるという、主体的な考え方です。

どんな環境でも、そしてどんな過去があったとしても、最後に決めるのは、自分自身だ！という考え方です。

例えば、アドラーの著『人生の意味の心理学』では、暗闇で怖がる子どもの例が挙げられています。子どもが暗闇で怖がっているとき、「暗闇があるから怖い」つまり、

暗闇(原因) → 恐怖(結果)

という、原因と結果(決定論)で考えがちです。

しかし、アドラー心理学の目的論では、なにか目的のために、いろいろな経験を利用していると考えます。

この例でいうならば「母親の関心を引くという目的のために、暗闇という状況(経験)を利用して、恐怖という感情を作り出している」と考えるのです。他にも「怒る」や「泣く」などの行為も、「相手を支配するため」など目的のために感情を自ら作り出していると考えます。



ベストセラーになった『嫌われる勇気』の中では、引きこもりの例が出ています。

一般的には何か原因があって引きこもりになっていると考えます。

しかし、目的論の立場では「外に出ない」という目的のために、不安な感情や、神経症などの症状も作り出していると考えます。

原因論が過去に目を向けた考え方だとしたら、目的論は未来に目を向けた考え方です。

「最終的に自分で決めることができる」という自己決定の考え方をするので、どんなときも自分で人生をつくっていけるという意味で、とても前向きです。

しかし同時に「~のせいで...できなかった」という、過去や身の回りの環境を言い訳にできないという厳しさもあります。

なお、目的論は一つ一つの「行動」ととどまらず、究極的には人生そのものにも目的があると考えます。人はそれぞれもっている人生の目的に向かって、常に自ら選択し、行動していく存在なのです。

【実践編】子どもの不適切行動を目的論で分析してみると…

目的論を使った、子どもの不適切行動の分析を紹介します。この分析方法は、親子関係や、学校現場でもかなり実践的に使えますよ！

※参考になっているのは…・アドラー心理学SMILE講座テキスト

・ヒューマンギルド アドラー心理学ベーシック講座

目の前の子どもに、何か不適切な行動があったとき、それらの行動の目標を、4つのどれかに分類します。また、これらの行動に含まれる子どもの本音は、次のようなものと分析されます。

子どもの不適切行動の目標（目的）

子どもの行動	目標	子どもの本音
怠惰、ムダ口、ぐずり 落ち着きのなさ、邪魔など	関心をひく	私に注目して 私と関わりをもって
頑固、不服従 反抗、非協力など	主導権を 握る	私にやらせて、選択させて あなたに支配されたくない
さらに強い反抗、攻撃 傷つく（身体、言葉）など	仕返し 復讐	私は傷つけられた 私を助けて
無反応、すぐに諦める 消極的、孤立	無気力な 態度を示す	独りにして、何もできない 私を諦めないで

例えば、クラスで授業中におしゃべりをやめない子どもは、教師の関心を引くという目標をもって行動している可能性があります。

また、不登校や引きこもりをする子どもは、無気力な態度を示し、親を落胆・絶望させることを目標としているかもしれないと考えます。

次の表は、子どもの行動に対して、親や教師の感情やとりがちな対応、またそのときの子どもの反応をあらわしています。

子どもの不適切行動に親・教師がとりがちな対応

目標	親・教師の感情	親・教師のとりがちな対応	子どもの反応
関心をひく	イライラ	注意してやめさせようとする	一時的にやめるが、しばらくすると再開する
主導権を握る	怒り 憤慨	力で子どもを屈させようとする	さらに強い態度で主導権争いに出る
仕返し復讐	傷つく	報復する、仕返しをする	さらなる復讐の機会をさがす
無気力な態度を示す	絶望 落胆	この子はどうにもならないと諦める	接触を拒否し、閉じこもる

目的論の考え方に立つとき子どもが不適切行動は、誤った目標へ向かっていると考えます。

例) 不適切行動＝子どもが授業中に話す

誤った目標＝教師の関心を引く

もし、親や教師が「とりがちな対応」を続ける限り、子どもは誤った目標を達成することになります。

例) 不適切行動＝子どもが授業中に話す

誤った目標＝教師の関心を引く

親や教師のとりがちな対応＝注意をしてやめさせようとする

→「子どもの誤った目標＝教師の関心を引く」は達成されてしまう！

このように、親や教師が、子どものねらい通りの「とりがちな対応」を続けているかぎり、子どもは不適切行動をやめるところかエスカレートする可能性だってあるわけです。

では、教師や親が子どもの不適切行動をやめさせようとしたら、どうすればよいのか？

アドラー心理学では、以下のように対処の仕方を変えることを提案します。

子どもの不適切行動への、よりよい対処の仕方①	
目標	親・教師のよりよい対処の仕方
関心をひく	1.可能であれば不適切な行動に注目を与えない 2.適切な行動に注目を与え、勇気づける 3.意表をつく方法で注目を与える
主導権を握る	1.権力闘争の舞台から身を引く 2.子どもとおだやかに過ごせたとき、感謝の気持ちを伝える 3.子どもの協力を得て、子どもの力を建設的に使えるように援助する

子どもの不適切行動への、よりよい対処の仕方②	
目標	親・教師のよりよい対処の仕方
仕返し 復讐	①罰・報復を避ける ②決して傷ついたと言わない ③見捨てないで信頼関係の回復を図る ④子どもと信頼関係のある他の人の協力を得る
無気力な 態度を示す	①子どもの深い落胆を理解する ②諦めたり、憐んだり、批判したりしない ③積極的な努力はどんなことでも勇気づける ④外部の専門家（カウンセラー、精神科医など）の助力を得る

例えば、「子どもが授業中にしゃべる」という例では以下のように考えます。

例) 不適切行動＝子どもが授業中に話す

誤った目標＝教師の関心を引く

よりよい対処＝相手の思惑通りには反応しない

→「子どもの誤った目標＝教師の関心を引く」は達成されない！

ただこれだけだと、また別の手段で（そして、より過激な方法で）教師の関心を引こうとしてくるかもしれません。

なので、それを防ぐためにも、まずはその子どもが適切な行動をとったときに注目や反応し、勇気づけるようにし、「関心を引く」という目的のための手段を適切にしていくことを考えます。

「他者の関心を引く」ことを過剰に追求するのは、そもそも誤った目標でもあります。

しかし、子どもが勇気づけられ自信をつけていけば、「関心を引く」という誤った目標に向かって行動することそのものがなくなっていくというわけです。

いかがでしたか？

目的論の考え方を使えば、相手の行動の目的を分析できます。

相手の行動の目的を分析できれば、相手の行動へどのように対処すれば良いかが見えてくるというわけです。私自身上手く対応できているかと言われるとわかりませんが、皆さんの何かのヒントになれば幸いです。

